

SDゼミナール修了生の声

SDゼミナールは2024年で8年目を迎えました（2020年・2021年は中止）。2024年度修了生の鮫島さんと宮本さんにSDゼミナールの受講を通じて感じたことをお話しいただきました。

鮫島広樹さん

SDゼミナール8期生（2024年修了）／龍谷大学 学長室（企画推進）、インスティテューショナル・リサーチ（IR）室
政策提言レポート：テーマ「大学における業務の効果的な転換にかかる一考察—業務のスクラップに主眼を置いて—」

【経 歴】

2018年4月～2023年3月 法学部教務課

2023年4月～ 学長室（企画推進）、インスティテューショナル・リサーチ（IR）室

事務局：SDゼミナールを受講しようと思ったきっかけは何ですか。

鮫島さん：元々、あまり学外の方と関わる研修を受けたことがなく、今年はそういう研修を1つ受けたいと思っていたところ、良いタイミングで人事課からもこのSDゼミナールのお話をいただいたので、受講してみようと思いました。

事務局：学びがどのように活かされているか、受講後の変化はありましたか。

鮫島さん：特定の“この講義が”というより、全ての講義に共通していた部分ですが、意見交換をする機会が多かったことが印象に残っています。1人で受ける研修だと、自分で考えてそこで終わってしまうことがほとんどだと思いますが、他の人の意見を聞くことによって全く違う視点に気づいたり、そこから新たな発想も生まれたり、どんどん自分の考えを深めていくことができたのがすごく印象に残っています。私はあまり意見することが得意ではありませんが、様々な考えに触れることができたため、良い経験になりました。

事務局：事前課題も十分準備されたので、意見交換も盛り上がりさされましたか。

鮫島さん：まさに事前課題に取り組むことで、“今日はどんな話が聞けるのか”の予習になり、割とすんなりと先生の話も入ってきたうえで、自身の意見も言えたのかなと思っています。



▲SDゼミナールを受講中の鮫島さん



▲SDゼミナールを受講中の鮫島さん

事務局：学びがどのように活かされているか、受講後の変化はありましたか。

鮫島さん：最後の政策提言レポートを書くにあたっては、色々な情報を調べる必要がありましたが、その経験が活きていると思います。今の私の業務は、多岐に渡る知識を必要とすることが多いのですが、例えば、雑誌の記事や論文を探すときなど、レポートを作成する過程での経験が活きているな、と思うことがあります。あとは、より他大学など、学外に意識が向くようになったと思います。以前までは、どこか「学内や特定の部署での業務のやり方」を身に付けて満足していた部分がありましたが、今は他大学ではもっといい事例があるのではないかと調べる習慣がついたと思います。これはこのSDゼミナールで、様々な大学の受講生の方と交流する機会がたくさんあった影響だと思っています。

事務局：他大学の職員と一緒に学ぶことについて、どのような関係性を築けられましたか。

鮫島さん：毎週懇親会を実施していたこともあって、すごく仲良くなることができました。懇親会では、講義内容にまつわる話をし、さらに考えが深まることもあれば、他愛もない世間話をして大いに盛り上がることもありました。ときにはボードゲームをすることもありました。そのおかげもあってか、講義に行くのがあまり苦じゃないというか、むしろ毎週土曜日が楽しみぐらいに思えました。本当にいい同期の方々に恵まれたと思っています。

事務局：土曜日の受講にあたり、仕事との両立はできましたか。

鮫島さん：私は業務時間外の自己研鑽というかたちで受講していました。逆に平日だと、通常の業務を気にしてこのSDゼミを受けられなかったかもしれません。そういう意味では、むしろ土曜日に受講できて、ありがたかったです。

事務局：講義について、オンラインのほうが参加しやすいという方もいれば、対面のほうが良いという意見もある中で今回は第6回（大学の戦略とリーダーシップ）のみZoomで実施しましたが、いかがでしたか。

鮫島さん：オンラインは自宅で受講できるので便利な点もありましたが、やはり個人的には、他の受講生の方との意見交換や、その場その場で話をすることがすごくいい経験になったので、対面のほうが良かったかなと思っています。

事務局：SDゼミナールは毎週の講義に加えて課題や政策提言レポートの執筆、公開プレゼンテーション等、少しハードルが高いと感じておられる方もいらっしゃるかと思います。そのあたりはいかがでしょうか。



▲公開プレゼンテーション

鮫島さん：事前課題については、予習にもなったのでよかったですと思っています。政策提言レポートは、確かに少し大変だったというか、作成期間中に業務内容が変わったりしたので、悔いが残る・・・もっといいレポートにできたのではないかなと思うところがあります。言い訳にすぎませんが（笑）。ですが、先ほど申し上げたとおり、情報収集などレポート作成の過程での経験は今に活かしています。公開プレゼンテーションでは、発表を10分におさめるのにすごく苦労しましたが、エッセンスを抽出して簡潔にまとめる能力も重要だと感じました。総じて大変な部分もあり、それぞれ決して100%の出来とはいきませんでした。それでも多くの学びがあったので、そんなにハードルが高いと感じていただかなくていいのではと思います。

事務局：最後に受講を考えている職員にメッセージをお願いします。

鮫島さん：私と同様に学外のことに目を向けたい方にはぜひ受講していただきたいと思います。現在の仕事にも少し慣れてきた、といった方にとっては、視野を広げるチャンスになると思います。あとは広範なテーマの講義を受講できますので、様々な知識の獲得やおさらいをしたい方にもおすすめです。私は受講前、ついていけないか不安でしたが、素敵な仲間にも恵まれ、なんとか乗り切ることができました。大学職員としての経験が比較的浅い方も、あまり気負いすぎることなく、積極的に受講してみただけると良いと思います。



宮本泰子さん

SDゼミナール8期生（2024年修了）／佛教大学 研究推進部 社会連携課

政策提言レポート：テーマ「グローバル人材の育成とメタバース」

【経 歴】

2015年4月～2018年3月 学生支援部進路就職課

2018年4月～2019年3月 生涯学習部通信学務課

2019年4月～2021年9月 教育推進部国際交流課

2021年10月～ 研究推進部社会連携課

事務局：SDゼミナールを受講しようと思ったきっかけは何ですか。



宮本さん：前年度に身近な先輩が受講されていて、当時私は、社会連携課で一緒だったんですが、その先輩はまさにSDゼミナールをきっかけとして、プロジェクトに採用されたり、（政策提言レポートの研究テーマに直結する）広報課へ異動になったり・・・と。SDゼミをとおして得たご縁や知識がそのまま業務に活かしている姿を間近で見ていて、SDゼミナールに参加したら絶対に何かプラスになるなと思い、参加しました。憧れの先輩？かどうかはちょっとわからないですが（笑）その先輩がきっかけだったというのは確かですね。また、私は今年度で在職10年になりますので、今後のキャリアパスを考えた時に、このタイミングで大学業界全体のあらゆる知識に触れる機会があった方がよいと感じていましたし、政策提言レポートを書くところまで突き詰められたらなと思って参加しました。

事務局：最も印象に残っている講義や出来事がありますか。

宮本さん：一番印象に残った講義は、京都橘大学の西野先生の「大学教育の質保証に向けた教学マネジメント」の講義ですね。今まで教学系に配属されたことがなかったので、当初は「教学マネジメントって何ですか？」みたいな状態でした。少しボリュームのある事前課題でしたが、課題の準備をしているうちに徐々に理解が深まっていきました。また、学内の担当部署の先輩に話を聞いたり、同僚（佛教大学受講生）と協力したり・・・今まで触れてこなかった部分が面白くて、すべてが新鮮でした。講義当日は、西野先生のお人柄もあって、皆が意見を言いやすい雰囲気作りをしてくださったのが印象的でした。



▲SDゼミナールを受講中の宮本さん

事務局：学びがどのように活かされているか、受講後の変化はありましたか。

宮本さん：現在は社会連携課に所属しているので、深尾先生の「大学と社会—地域連携の意味と大学の役割—」の講義の中で、大学の社会貢献は、「ただ地域から需要があるからやる」ということではなく、地域というパートナーとの価値共創であるという視点をいただきました。外部からの依頼が沢山ある中で、何を取捨選択していいのか分からないと感じていましたが、一緒に価値を生み出すことに意味があるということが、自分の中ですごくなるほどと腑に落ちましたし、現在の所属である社会連携課で軸となる新たな考え方をいただきました。また、文献や先輩、他大学の職員の方に頼ることができるようになったのは大きな変化でしたし、大学職員として“学び続ける”ということに対する意識が高まりました。

事務局：他大学の職員と一緒に学ぶことについて、どのような関係性を築けられましたか。

宮本さん：回を重ねるごとに仲良くなっていき、本当に「何でも言い合える関係」を築くことができました。それぞれ大学の特徴や人数規模、学科構成等は違えど共通の悩みもあって、悩みを共有できるし、アドバイスもできるし、「いや、お前それこちゃう？」みたいな感じで、割と厳しいツッコミも言えるような素敵なお縁に恵まれたと思います。政策提言レポートを提出したあとの打ち上げも休みの日に行い、仕事だけではなくプライベートな話もできるほどになりました。これからも大事にしていきたいと思っています。



事務局：土曜日の受講にあたり、仕事との両立はできましたか。

宮本さん：現在の社会連携課は、土・日曜日の出勤が多い中で、「SDゼミナールを優先してください」と言っていたとき、快く送り出していただいた上司と同僚にはすごく感謝しています。でも、受講が土曜日ということ自体をあまり負担と感じたことはないですね。平日に業務を抜けて受講するというよりは、毎週土曜日に受講する方が、リズムもできてきました。繁忙期とレポート提出が重なった時は負担に感じることもありましたが、事前にスケジュールを組んで比較的計画的にできたと思います。

事務局：土曜日の受講に関して、不安なことや、逆に受講してみたらそれほどでもなかったと思うことはありましたか。

宮本さん：それほど不安もギャップもなかったです。SDゼミナールを出勤扱いにいただいていたのもあり、大きな負担と感じたことはなく、大丈夫でした。

事務局：平日に振休を取得しなければいけないという負担感はなかったですか。

宮本さん：講義の時期（5月～7月）が繁忙期ではなかったこともあり、そこまで負担感はなかったです。レポート提出とプレゼンの時期は繁忙期でしたので、何とかこなしていた感じです。

事務局：講義について、オンラインのほうが参加しやすいという方もいれば、対面のほうが良いという意見もある中で今回は第6回(大学の戦略とリーダーシップ)のみZoomで実施しましたが、いかがでしたか。

宮本さん：そうですね。もしZoomの講義のみだったら受講生同士がここまで仲良くなれなかったらと思うのと、対面だと先生にちょっと質問するみたいなことができるので、やはりオンラインより対面のメリットの方が多いかなと感じました。すごく関係ない話ですけど（笑）、私、猫を飼ってまして、めちゃくちゃ邪魔されました。大学で受講すればよかったなと・・・実際のZoom講義で大きな不具合を感じることはなかったですが、対面の良さに気づききっかけではありましたね。

事務局：最後に受講を考えている職員にメッセージをお願いします。



宮本さん：受講前は、「意識高い系」の方たちに圧倒されるかな・・・と思っていましたが、受講してみたらみんな同じ温度感で、それが意外というか・・・それがよかったなと思っています。引け目を感じる必要はないので、少しでもSDゼミナールに興味があるのなら挑戦してみるべきだと思います。その挑戦が、自分のキャリアプランや価値観を変えるきっかけになると思います。また、講師の先生方はもちろん、大学コンソーシアム京都の皆さんも全力でサポートしてくださるので安心して受講いただけたらと思います。

過年度 SDゼミナール政策提言レポート

SDゼミナールの受講生の政策提言レポートテーマ一覧（2022年度～2024年度）

政策提言レポートテーマ	
1	組織の活性化とホスピタリティーコミュニケーションと共感力の視点から
2	自大学における体系的SD構築についての提言
3	小規模大学における健全な大学経営の考察～経営者の仕事に主眼を置いて～
4	本学研修制度の再構築について～若手職員を対象とした提案～
5	本学通信教育部におけるエンロールメント・マネジメント～学生募集担当の視点から考える課題と施策～
6	大学における「教職協働」の実現と推進について
7	発達障害グレーゾーン学生への修学支援体制構築
8	大学と地域との連携体制の充実に関する提言～自大学を例として～
9	意識づけによる大学の防災力向上
10	大学職員の専門性を向上させる「部署別研修」支援制度の提案
11	若手職員の大学間競争への取り組み方について
12	自大学におけるブランディングの提案～組織力の強化と教育の質向上を目指して～
13	自大学におけるピアチュータリングの考察
14	ジェンダー教育の必要性に関する一考察～理工系進学者の女性割合を増やすためには～
15	自大学におけるこれからの寄付募集とその活用について
16	自大学学習支援部門ラーニングアシスタントにおける越境学習に関する提言～3つのステップと中長期的な展望について～
17	自大学における国際共修の提言～グローバル人材を育てるための段階的な国際共修プログラムの構築～
18	変革を目指す大学組織のチームアップ：「心理的安全性」の構築
19	大学通信教育の教職課程事務担当職員の履修指導にかかる能力向上に関する提言～ルーブリックを活用した職員による相互研修の実施～
20	自大学大学院における社会接続型演習科目の在り方について
21	自大学の学生にICTの実践を促す方法について～生成AIの利活用を例として～
22	エンゲイジメントの向上に向けた考察～限られた人財で最大の効果を創出するために～
23	大学における業務の効果的な転換にかかる一考察～業務のスクラップに主眼を置いて～
24	大学職員のワーク・エンゲイジメントに影響を与える要因分析
25	遠隔での学びにおける双方向性コミュニケーションの実効性の検証とコミュニケーションツールの提案
26	中途退学を防ぐ方策について
27	本学における生涯学習の将来性 リスキリング教育について先行事例に学ぶ
28	自大学におけるメディアリレーションズの有効性
29	グローバル人材の育成とメタバース
30	年内入試合格者への効果的な入学前教育の一考察～小規模学力多様校に世代間交流を～
31	職員間の組織学習コミュニティ育成の提言～変化・挑戦しつづけるための「組織カルチャー」の土台づくり～